

# 東京電力の点検データ改ざん事件に関する申し入れ

若狭連帯行動ネットワーク

東京電力による原発の自主点検データ改ざん事件が8月29日に明らかにされ、原子力安全・保安院は翌日、貴社を含むすべての電力会社および原子力関連会社に「原子力施設にかかる自主点検作業の適切性確保に関する総点検」を指示しました。そこでは、自主点検作業の適切さに関する客観的証拠に基づく調査、適切さを保証する社内体制や不正防止策、調査・総点検実施計画の9月20日までの提出、不正発見時の即時連絡、点検・修理作業の主要委託業者一覧の提出を求めています。また、福井県も同日、過去の自主点検の検査記録に不正がないか総点検するよう指示しています。

貴社では敦賀1号の定期検査でゼネラル・エレクトリック・インターナショナル社(GEII)に作業を委託しており、今春の定期検査でも、原子炉再循環ポンプの振動計など3カ所の補修・点検を実施しています。貴社は1999年の第26回定期検査で「予防保全」と称してシュラウドを交換していますが、その前4回の定期検査で「異常なし」としながら、なぜか「シュラウドのSCC対策」として水素を注入しました。シュラウド交換時にはシュラウドサポートの約300ヶ所にひび割れが発見されていますが、これらの深刻なひび割れがなぜ直前の2回の定期検査時に発見されなかったのか説明がつきません。

歴代の日本原電会長、社長、取締役には東京電力の役員や原子力発電所長が多く就任しており、点検データ改ざんの「文化」が流入していたのではないかと疑われます。

また、私たちは貴社の100%子会社である原電工事が使用済燃料(MOX燃料)輸送容器の中性子遮蔽材データ改ざんを行っていたことを決して忘れません。

ここに下記の申し入れを行いますので、真摯に対応されるよう強く求めます。

1. 「予防保全」と称して行ったSCC対策等のすべてについて、該当する機器の点検生データ、委託先の検査記録、貴社内での検査記録、現品写真を公表し、データ改ざんの有無を明示して下さい。総点検結果について公開説明会を開いて下さい。
2. 貴社の歴代会長、社長、取締役には東京電力の役員や原子力発電所長が多く就任していました。退職者を含めて貴社の役員に就任したすべての東電関係者に対する調査を徹底的に行い、調査結果を公表して下さい。
3. 30年近くにおよぶ東京電力での点検データ改ざんの歴史をみれば、貴社を含めた電力会社による「原子力安全文化」の宣伝は国民を欺くものであったといえます。「原子力安全文化」は最初から崩壊していたことを貴社としても反省し、県民と国民に謝罪して下さい。また、総合学習の時間の資料として小、中、高等学校に配布している原子力推進教材をすべて回収し、誤った宣伝を行ってきたことを率直に認め、反省して下さい。
4. 敦賀3・4号増設の事前了解願いを取り下げして下さい。増設を断念して下さい。